



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

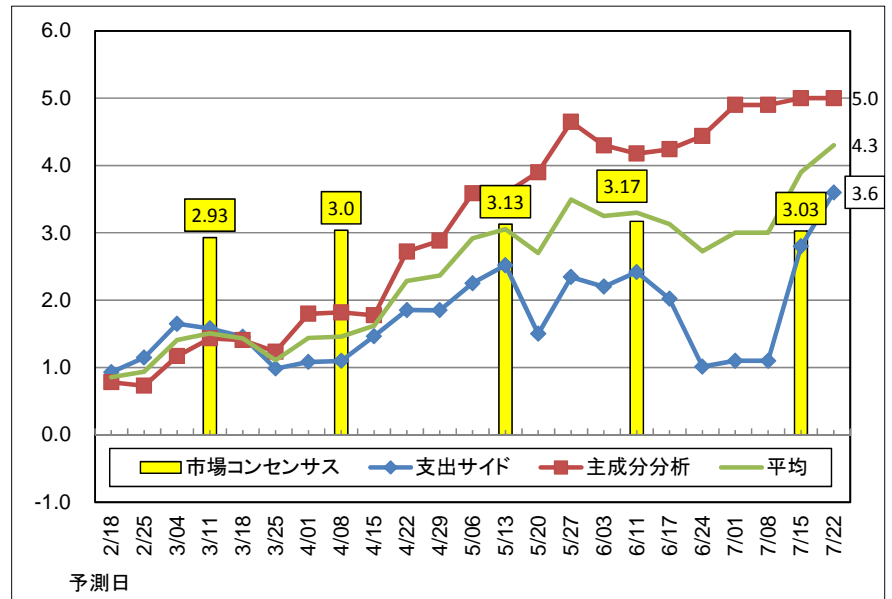
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年7月22日)

ポイント

- ▶5月の公共工事(建設総合統計)が注目材料であることを先週の予測で指摘したが、結果は予想から上振れた。
- ▶5月の公共工事は前月比 18.1%大幅増加。4ヵ月ぶりのプラス。すでに公共工事の先行指標は4-6月期に前期比+34.1%と大幅増加。4-6月期の公共投資は成長率引き上げに大きく寄与することが期待できる。
- ▶今週(7/22)のCQM(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.6%と予測。内需と純輸出がともに前期並みのスピードで拡大。予測は先週から上方修正された。
- ▶これまで支出サイドの予測は生産サイドに比して弱かったが、この2週間、5月の重要なデータが更新されるにつれて大幅に上方修正。
- ▶両モデルからの予測乖離幅が縮小したことから、4-6月期は支出・生産面ともに前期に匹敵する高い成長率の実現できる可能性が高まった。今回の消費税率引き上げ最終決定にとっては好材料。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年4-6月期(%, 前期比年率換算)



<4-6月期の日本経済は支出・生産面ともに前期に匹敵する高成長：消費税率引き上げには好材料>

先週は5月の全産業活動指数、毎月勤労統計(確報値)、景気動向指数(改定値)及び建設総合統計が更新された。これらのデータは、民間企業設備、公的固定資本形成及び雇用者報酬の予測に影響を与える。

先週の予測では民間最終消費支出と純輸出が上方修正された。その際、次週発表される5月の公共工事(建設総合統計)の結果が注目材料であることを指摘したが、結果は予想を上振れた。

5月の公共工事は前年比 12.9%大幅増加した。16ヵ月連続のプラス。季節調整値(APIR 推計)も前月比 18.1%大幅増加した。4ヵ月ぶりのプラス。先行指標である公共工事請負金額(季節調整値：APIR 推計)は4-6月期に前期比+34.1%と大幅増加した。このことから、4-6月期の公共投資は成長率引き上げに大きく寄与することが期待できる。

今週(7/22)のCQM(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を前期比+0.9%、同年率+3.6%と予測する。内需及び純輸出は前期並みのスピード(+4.1%)で拡大する。先週の予測(+2.8%)から上方修正されており、その主因は公的固定資本形成の上方修正である。これまで支出サイドモデル予測は主成分分析モデル予測に比して弱かったが、この2週間、5月の重要なデータが更新されるにつれて、民間最終消費支出、公的固定資本形成、純輸出の予測値が大幅に上方修正された。結果、両モデルの予測の乖離幅は縮小し、4-6月期の日本経済は支出・生産面ともに前期に匹敵する高い成長率(平均成長率+4.3%)が実現できる可能性が高まった。これは今回の消費税率引き上げ最終決定にとっては好材料となろう。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690